

(様式1－表)		令和6年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書					
		学校番号	12	豊田市立 矢並小 学校	代表	藤井 忍	
※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、iその他（ ）】から選ぶ。							
テーマ	郷土を愛し、郷土に貢献する児童の育成					分野	B
	サブテーマ ー矢並・恩真寺湿地学習と保全活動、地域に誇りをもつクラブ活動ー					i(その他) は 分野を右欄に 記入	地域連携
学校づくりの視点（ねらい）	<p>本校は小規模校であり、地域は豊かな自然、文化、人情厚い人々と、とても環境に恵まれている。地域や保護者の教育や学校への関心は高く、協力的であり、地域ぐるみの教育が根付いている。現在、地域学校共働本部とともに、地域ぐるみの教育のさらなる充実を図り、学校、保護者、地域が共働して、郷土を愛し、郷土に貢献する児童の育成を目指している。</p> <p>児童は、総合的な学習の時間や、生活科で、地域の宝である矢並湿地について学び、保全活動を行っている。また毎年、湿地の一般公開日に子どもおもしろナビを行うなど、地域の宝を広め、守っていききたいという心を育てている。昨年度は、ラムサール条約に登録された、3湿地合同の交流会も行い、みんなで協力して湿地を保全する活動を行っている。他にも湿地だけでなく、郷土の偉人、鈴木正三についても学び、学習発表会等で発表をし、郷土を愛する心を育てている。</p> <p>また、クラブ活動では、地域に伝わる郷土芸能である「棒の手クラブ」や、地域の自然を生かした「野鳥クラブ」など、地域の特色を生かし、その道に長けたクラブ活動ボランティアを迎え、クラブ活動を行っている。</p> <p>このようにして自分の地域を見直し、新たな発見をすることによって、郷土をますます愛し、郷土を大切にし、貢献する矢並っ子の育成を目指している。</p>						
活動内容・計画	<p>①3年生から6年生までの総合的な学習の時間で、地域の宝である矢並・恩真寺湿地について、総合単元的なカリキュラムを組み、系統的に学ぶ。豊田自然観察の森レンジャーを講師として、湿地についての学習を深め、児童の課題解決力を高める。（通年）</p> <p>②矢並湿地について学習を進めていく中で、湿地について分かったことや、保全することの大切さについて、湿地一般公開日や授業参観などで、保護者や地域の人に伝える。（10月～11月）</p> <p>③矢並湿地保存会の人々とともに、湿地の保全活動を全校児童・保護者で行う。（1月）</p> <p>④3年生から6年生の総合的な学習の時間に、地域の偉人、鈴木正三について学習する。また、3・4年生においては、鈴木正三の功績について、児童が自ら課題を設定し、追究していく学習を行う。（通年）</p> <p>⑤4～6年生は、クラブ活動を年8回行う。「棒の手クラブ」「お茶クラブ」「野鳥クラブ」の3つのクラブに分かれ、それぞれその道に長けた地域講師から学ぶ。（通年）</p> <p>⑥学校ホームページに活動内容を紹介し、保護者や地域に発信する。</p>						
補助員配置	校内整備員（学習しやすい環境づくり）						
実績・期待される効果	<p>・矢並湿地や鈴木正三について毎年学年を決め、系統的に学習していくことで、地域に対する愛着と誇りをもつことができ、自分たちで守っていこうという気持ちをもつことができている。また、矢並湿地保全活動を地域と協力して行うことで、自分たちで地域の宝である矢並湿地を保全しようという気持ちが育っている。</p> <p>・地域の人々とふれあう機会が増え、地域の人々の願いや考え、地域の様子などを考えることができるようになってきている。</p> <p>・地域について人々や資料から学ぶことで、長年にわたり、自分の地域を守ってきた多くの人のおかげで現在の自分があることを認識することができる。</p> <p>・それぞれの地域の特色を地域講師から学び、クラブで交流することで、地域のよさを再確認し、郷土に伝わるものを大事に守っていこうという意識をもつことができる。</p>						
検証方法	<p>・矢並湿地ガイド学習において、矢並湿地について学び、追究していく中で、児童の湿地に対する気持ちを読み取る。また、保護者や湿地一般公開の訪問者に向けたガイドを行う中で、児童の様子や振り返りから学びを観察する。</p> <p>・鈴木正三について追究し、学んだことを学習発表会で発表する中で、児童の学びを観察する。</p> <p>・クラブ活動時に、児童の様子を観察する。</p> <p>・保護者アンケートによる評価を行う。</p>						